いわゆる「ライト式」の住宅に関する研究
建築家岡見健彦の作品について

井　上　祐　一*

Wright-Shiki Residential Architecture
As Seen in the Work of Takehiko Okami

Yuichi Inoue

要　　旨　本稿は，帝国ホテルの設計者として知られるアメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトの日本への影響に関する研究の一環としている。ライトの設計になる帝国ホテル（1923年竣工）の出現に伴い「ライト式」という呼称が生まれ，その後，昭和初期にかけて，いわゆる「ライト式」の用語が多数使用され，ライト風の建物のデザインが流行した。このころ，岡見健彦はライトの愛弟子である遠藤新が主宰する遠藤新建築創作所に勤務し，その後1929年からアメリカのライトの下で1年間学んだ。そして，ヨーロッパに渡りフランスのル・コルビュジェの事務所などを訪問して帰国した。帰国後の1932年から戦後に至るまでの間に岡見が設計した住宅には，ライトあるいは遠藤と共通したデザインが見られると共にモダニズムの影響も現れている。このことから，岡見はライトや遠藤から受けた影響を基底に持ちながらモダニズムの表現をも加味した独自の住宅デザインを展開したものと考えられる。

は　じ　め　に

本稿は，大正12年（1923）に完成した帝国ホテルの設計者として知られるアメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトの日本への影響に関する研究の一環としている。

ライトの日本人弟子たちには，帝国ホテル建設時にチーフアシスタントであった遠藤新をはじめ南信[1]，田上義也[2]，土浦亀城[3]，河野傳[4]，内山隈三[5]，藤倉憲二郎[6]，伊藤清造[7]，渡辺己午蔵[8]，剣持某[9]，高橋某[10]，などがいたことが知られている。

また，帝国ホテルの出現とともにライトの建築を示す「ライト式」という用語が生まれ，その後昭和5年まで，弟子たちが設計した建物やライトのデザインに似せた建物にも「立体式」「ライト風」「立体的有機体」「ライト張り」「ライトまがい式」など，いわゆる「ライト式」の用語が冠せられた[11]。

本稿では，ライトの愛弟子とされる遠藤新の設計事務所所員を経て[12]，アメリカでライトのもとに学び，帰国後ライトの影響が明らかな高輪教会（1932）や頌栄高等女学校記念堂(1937)を設計したことで知られ，モダニズムの影響も見られるものの，自己の作風に収束したと推察される岡見健彦の住宅作品の特徴について考察する。

なお，資料は2002年から2003年にかけての調査[13]により存在が明らかになった2冊のスケッチノート及び約700枚の原図のうち，原図を使用した。

1.　岡見健彦の略歴

岡見健彦は，明治31年（1898）3月29日に岡

* 本学助教授　建築意匠設計　日本近代建築史

見義治と光子の長男として生まれた。大正14年（1925）に東京美術学校建築科を卒業後，遠藤新建築創作所に入所し，昭和３年７月31日に同所を辞任した。同年12月に渡米して，昭和４年（1929）８月６日から昭和５年８月６日までライトの工房タリアセン（1932年に学校となる）に滞在した。その後，パリにル・コルビュジェの事務所を訪ね，ジャンヌレに会うなどして帰国した。

帰国後の昭和７年（1932）に岡見健彦設計事務所を開設し，高輪教会を始め，主に住宅の設計を行い，戦後は，昭和21年にアメリカ海軍施設部の設計部門に所属し，昭和34年（1959）に退職している。退職後も住宅や教会を設計したが，昭和47年（1972）12月３日に74歳で没した[14]。

2. 住宅作品

これまで岡見の住宅作品については，間邸，水谷邸，若尾別邸，小町谷操三邸および岡見自邸（戦前と戦後の２軒）の６軒が知られていた[15]。しかしながら，その建物内容については明らかでなかった。この度の調査で，既出の内の５軒を含む25軒の住宅原図の存在が判明した。

そのうちの21軒について，平面図及び年代の記入が認められるとともに，仕様書や外観を示す立面図や透視図が確認できた。

次の21軒が確認できた住宅である。

①間邸（1933），②岡見富雄邸（1933），③永島邸（1933），④今岡邸，⑤－１由良邸（1935），⑥山川邸（1935），⑦岡見弟三邸（1936），⑧藤田邸（1936），⑨林（リン）邸（1937），⑩増田邸(1937)，⑪田中邸(1937)，⑫鳥居邸(1937)，⑬水谷邸（1938），⑭山中湖畔の家（1939），⑮小川邸（1940），⑯大森氏貸家（1941），⑤-2由良邸（1942），⑰BAGAI邸（1953），⑱小町谷操三邸（1956），⑲依田邸（1956），⑳岡見自邸（1956）

（①から⑳は，［表１］及び図版に示した番号。ただし，２軒の由良邸については⑤-1，⑤-2とした。）

以上21軒のほか，年代不明あるいは建築内容が明らかでない住宅は，岡邸，住宅，松平市三郎邸（1933），小住宅（1963）の４件ある。

3. 住宅の特徴

ライトの住宅の特徴として，水平線を強調した外観デザイン，緩勾配の屋根，切妻屋根ケラバの転び，深い軒の出，連続した開き窓，均等でない建具の桟割り，凹凸の多い平面形，部屋の３面の開口部，造り付長椅子，造り付棚などが知られている[16]。ほかにも，切妻屋根や寄せ棟屋根あるいは陸屋根を多用している。

岡見の住宅の特徴について［表１］に示した21軒の外観と平面について見る。

1）外観について

(1) 屋根

• 緩勾配屋根は，21軒中19軒（90％）あり，ほぼ全てに見られる。

• 屋根形状については，切妻屋根が半数を超える11軒（52％）あり，寄せ棟屋根が10軒（48％），陸屋根が10軒（48％）で，それぞれがほぼ半数に見られる。また，各形状の併用が10軒（48％）ある。陸屋根のみの建物は⑧藤田邸１軒（5％）であるが，他の住宅にも見られるモダニズムの影響が⑧藤田邸に顕著である。

• 屋根葺き材は，瓦が１番多く15軒（71％）ある。

• 深い軒の出は，21軒中９軒（43％）に見られる。４軒（19％）については深い部分と浅い部分が同時に見られ，建物全体としては「深い軒の出」とは言い難い。

(2) 水平線の強調

水平線の強調は鼻隠しやパラペット上部板材あるいは窓上下端位置の水平材等によるが，ここでは17軒（81％）に見られる。

(3) 開口部

開き窓は９軒（43％）に見られ，引き違い窓は20軒（95％）に見られる。

また，均等割りでない桟の建具は⑮小川邸１

表1　岡見健彦設計による住宅の特徴

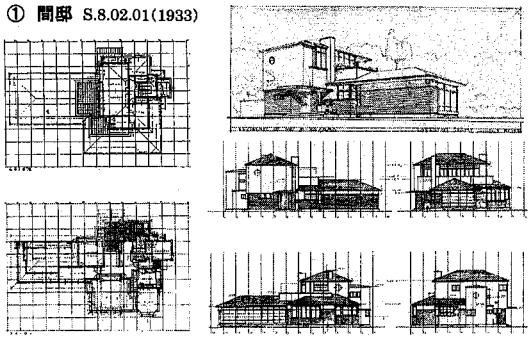
図面日付（最新）			昭和八年（二月一日）	昭和八年（五月五日）	昭和八年（九月）	昭和九年（一〇月）	昭和一〇年（七月二〇日）	昭和一〇年（一二月）	昭和一一年（一月）	昭和一一年（七月）	昭和一二年（二月）	昭和一二年（四月八・九日）	昭和一二年（四月八日）	昭和一二年（六月）	昭和一三年（六月）	昭和一四年（六月）	昭和一五年（二月六日）	昭和一六年（一二月二三日）	昭和一七年（一月一二日）	昭和二八年（四月一五日）	昭和三一年（三月三日）	昭和三一年（一〇月）	昭和三一年
	特徴	建物名称	① 間邸	② 岡見富雄邸	③ 永島邸	④ 今岡邸	⑤－1 由良邸（下大崎）	⑥ 山川邸	⑦ 岡見弟三邸	⑧ 藤田邸	⑨ 林（リン）邸	⑩ 増田邸	⑪ 田中邸	⑫ 鳥居邸	⑬ 水谷邸	⑭ 山中湖畔の家	⑮ 小川邸	⑯ 大森邸貸家	⑤－2 由良邸（等々力）	⑰ BAGAI邸	⑱ 小町谷操三邸	⑲ 依田邸	⑳ 岡見健彦自邸
平屋			－	－	－	○	○	○	－	－	－	－	－	○	○	○	－	○	○	○	－	－	－
二階屋			○	○	○	－	－	－	○	○	○	○	○	－	－	－	○	－	－	－	○	○	○
外観	屋根形状	緩勾配屋根	○	○	／	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		切妻屋根	－	○	／	－	－	○	○	－	－	○	－	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○
		寄せ棟屋根	○	○	／	○	－	○	○	－	○	－	○	○	○	－	－	－	－	○	－	－	－
		入母屋屋根	－	－	／	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		方形屋根	－	－	／	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		片流れ屋根	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		陸屋根	○	○	／	－	－	－	○	○	○	－	○	－	－	－	○	－	－	－	○	○	○
	屋根葺き材	金属板瓦棒葺き	－	○	／	－	／	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○	－	○
		金属板段葺き	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		スレート葺き	－	－	／	－	／	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		瓦葺き	－	○	／	○	／	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	－
		防水層＋モルタル（タイル）	○	○	／	－	／	－	○	○	○	－	○	－	－	－	○	－	－	－	○	○	○
	屋根廻	深い軒の出	－	○	／	－	－	△	△	－	○	△	○	○	○	○	○	－	－	○	△	○	－
		屋根付きテラス	－	－	／	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		ケラバの転び	－	－	／	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		鼻隠しの転び	○	－	／	○	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		塔状の煙突	○	－	／	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－
		塔状のトップライト	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		水平線の強調	○	○	／	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○	○	○	○
	その他	テラス	－	○	／	○	－	－	○	○	○	－	○	○	－	○	○	－	－	○	○	○	○
		バルコニー	○	○	／	－	－	－	○	○	○	－	○	－	－	－	○	－	－	－	○	○	○
		太柱	－	－	／	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	窓	均等割りでない格子の建具	－	－	／	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－
		開き窓	○	○	／	○	○	－	－	○	○	－	○	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－
		引き違い窓	○	○	／	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	建物と統一された門扉デザイン		○	○	○	○	○	／	／	／	○	○	／	○	／	／	○	／	－	－	／	○	／
	建物と統一された照明器具デザイン		／	／	／	○	－	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	－	－	／	／	／	／
	外壁仕上	左官	－	○	／	－	○	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	○	－	○	○	○
		下見板	－	－	／	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		内法下下見板・上部左官	－	－	／	－	－	○	－	－	－	○	－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
		内法下タイル貼・上部左官	○	－	／	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		羽目板	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－
平面	平面型	一文字型平面	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		一文字変形型平面	○	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	○
		丁字型平面	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		L字型平面	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		十字型平面	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		長方形型平面	－	－	○	○	－	○	－	－	－	○	－	○	○	－	－	○	○	○	－	○	－
		正方形型平面	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		雁行型平面	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		複合型平面	－	－	－	－	－	－	－	○	○	－	○	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－
	凹凸の多い平面形		○	○	○	○	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○	○	○	○
	スキップフロア		－	－	○	－	○	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
	廂下がない		－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－
	開口部	室3面の開口部（外壁面）	－	○	○	－	－	○	－	－	－	－	－	○	○	○	○	－	－	○	○	－	○
		開き窓	○	○	○	○	○	－	－	－	○	－	○	－	○	－	－	－	－	－	○	－	－
		引き違い窓	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	造作	暖炉	○	－	○	－	－	－	－	－	○	－	○	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－
		造り付ソファ	○	－	○	－	－	－	－	○	○	－	○	－	－	○	－	－	－	○	○	○	－
		造り付収納（押入れを除く）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○
	その他	太柱	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		テラス	－	○	○	○	－	－	○	○	○	－	○	○	－	○	○	－	－	○	○	○	○
		ルーフバルコニー	○	○	○	－	－	－	○	○	○	－	○	－	－	－	○	－	－	－	○	－	○
		池	－	－	○	－	－	－	○	○	○	－	－	－	○	－	○	－	－	○	－	○	○

①～⑳の住宅は，年代記入と平面図が有り，なおかつ外観を示した図が有るもの（図面は原図）

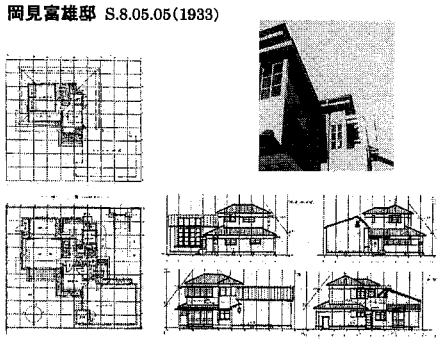
〈凡例〉　○：有り　△：どちらともいえない　－：無し　／：該当資料無し

岡見健彦　住宅作品

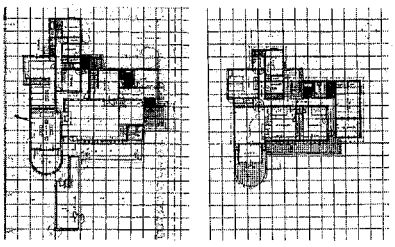
① 間邸 S.8.02.01(1933)



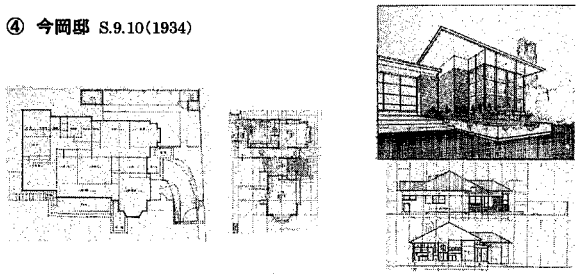
② 岡見富雄邸 S.8.05.05(1933)



③ 永島邸 S.8.09(1933)



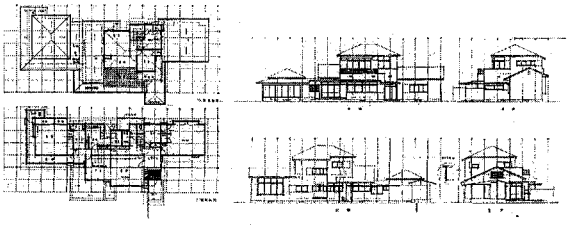
④ 今岡邸 S.9.10(1934)



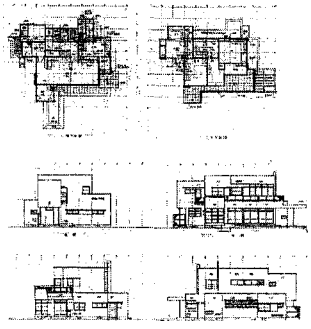
⑤ー1 由良邸 S.10.07.20(1935)

⑥ 山川邸 S10.12(1935)平面図　S.10　立面図

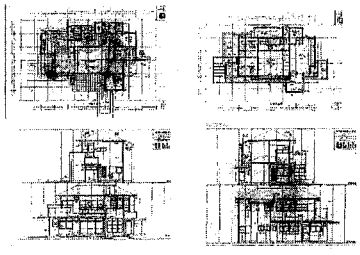
⑦ 岡見弟三邸 S11.01(1936)



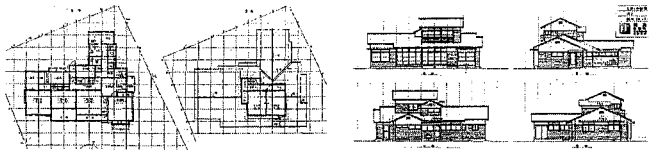
⑧ 藤田邸 S11.07(1936)



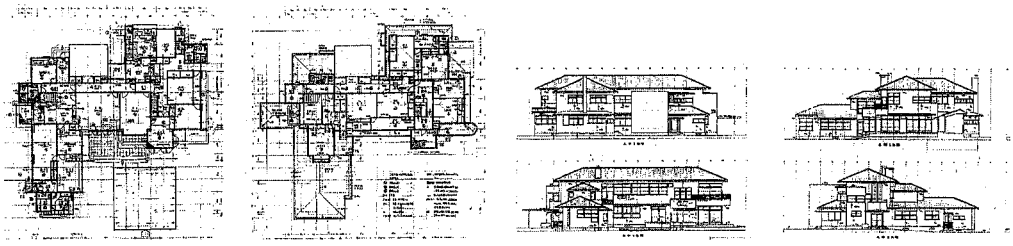
⑨ 林(リン)邸 S12.02(1937)



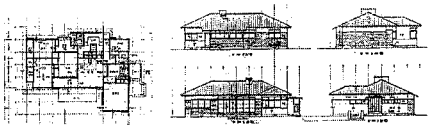
⑩ 増田邸 S.12.04.08(1937)平面図　S.12.04.09 立面図



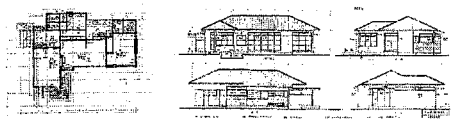
⑪ 田中邸 S.12.04.08(1937)



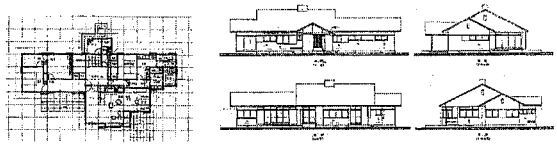
⑫ 鳥居邸 S.12.06(1937)

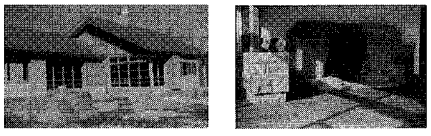


⑬ 水谷邸 S.13.06(1933)



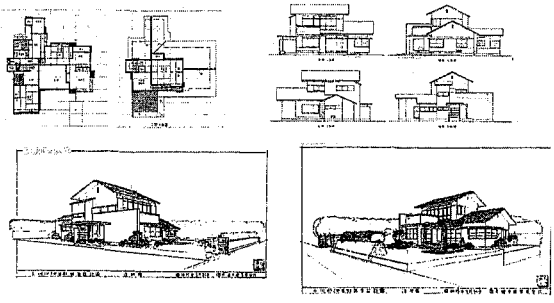
⑭ 山中湖畔の家 S14.06(1939)



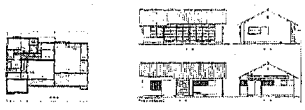


⑯ 大森氏貸家 S.16.12.23(1941)

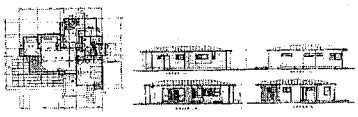
⑮ 小川邸 S15.02.06(1940)平面図 S15.01.31立面図 S.15.02.25/26透視図



⑤−2 由良邸 S16.12.25(1941)平面図　S16.12.26立面図

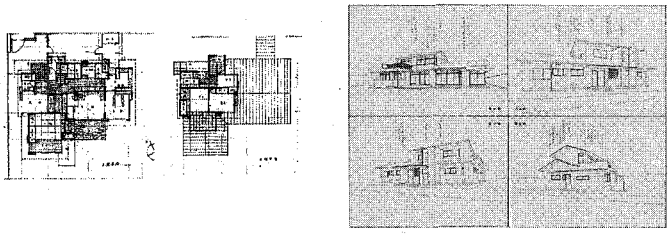


⑰ BAGAI 邸 S28.04.15(1953)



⑱ 小町谷操三邸 S.31.03.03

⑲ 依田邸 S31.10(1956)



⑳ 岡見健彦自邸 S31(1956)

軒（5%）に見られる。

(4) 外壁仕上

外壁は左官仕上が一番多く13軒（62%）に見られる。2番目は内法高までが下見板張りで内法高以上が左官仕上の4軒（19%）で，続いて内法高までがタイル張りで内法高以上が左官仕上げの2軒（9.5%），羽目板仕上が1軒（4.75%）ある。他の1軒については明らかでない。

(5) その他

• 建物と統一された門塀デザインは，ほぼ半数の10軒（48%）に見られる。

なおテラスおよびバルコニーについては，平面の項目で見る。

2) 平面について

(1) 平面の型

平面の型[17]は，長方形型平面が1番多く10軒（48%）で約半数あり，正方形型平面1軒（5%）を加えると11軒（52%）で半数を超える。次に多い一文字変形型と複合型が各4軒（19%）ある。

ちなみに長方形型平面は遠藤設計の住宅平面24軒中に2軒，正方形型平面は3軒が昭和初期に，また，一文字型および一文字変形型は大正期の3軒に見られる[18]。

(2) 凹凸の多い平面

凹凸の多い平面は，17軒（81%）あり21軒中の8割を占めている。

(3) 開口部

室3面の開口部は，ほぼ半数の10件（48%）に見られる。

また，開口形式については，開き窓は9軒（43%）に，引き違い窓は全建物21軒（100%）に見られる。そして両形式の併用は9軒(43%)あることが分かる。

ちなみに遠藤設計の住宅では，両形式の併用は大正期に多く見られ，昭和初期には引き違い

窓のみの使用へと変化している。

(4) その他

造り付収納は20軒（95%），造り付ソファは9軒（43%）見られる。また暖炉は5軒（24%）に設置されている。

テラスは14軒（67%），バルコニーは11軒（52%）に見られ，池については9軒（43%）に設置されている。

以上により，岡見健彦の住宅の作風について次のことが明らかになった。

屋根は，緩勾配屋根（90%）と陸屋根（48%）の併用が多数見られた。また，水平線の強調（81%）やモダニズムの影響も見られた。建物と統一された門塀は半数近い48%あった。また，殆どが凹凸の多い平面形（81%）で長方形型・正方形型平面（52%）が半数を超え，一文字型変形（19%）と複合型（19%）を合わせて38%あった。

外壁は，左官仕上げ（62%），2種類の材料を併用した，下見張りと左官仕上の併用（19%），タイル張りと左官仕上の併用（9.5%）を多用している。

開口部については，室3面の開口が48%あり，開き窓（43%）と引き違い窓（100%）の併用が43%あったが，昭和14年以降は主に引き違い窓のみを使用している。

ほかに，暖炉(24%)，造り付ソファ(43%)，造り付収納(95%)，テラス(67%)，バルコニー(52%)，池（43%）が岡見設計の住宅の特徴として考えられる。

終わりに

原図に見る岡見健彦の設計になる住宅の外観および平面の特徴は，緩勾配屋根，瓦葺，水平線の強調，外壁の左官仕上あるいは下見板（タイル）と左官仕上の併用，建物と統一された門塀デザイン，凹凸の多い平面形，造り付家具，暖炉，テラス，バルコニー，室3面の開口部，など多くの点で，フランク・ロイド・ライトや遠藤新の住宅の特徴と共通していることが分かった。一方，陸屋根で四角い外観デザインの⑧藤田邸に顕著であるモダニズムの影響も見逃せない。つまり，岡見はライトや遠藤から受けた影響を基底に持ちながらモダニズムの表現をも加味した独自の住宅デザインを展開したものと考えられる。

注

1) 1892～1951　ライト設計の山邑別邸の現場担当者。作品に菅野邸，亀高邸，仙台バプテスト教会などがあり，主に阪神間で設計活動をした。
井上祐一　初田亨　建築家・南信の経歴と住宅作品にみられる特徴について『日本建築学会計画系論文集』第571号，pp. 129-136，(2003.9)

2) 1899～1991　小熊邸，関場邸，佐田邸など北海道での，多くの住宅作品を中心とした設計活動で知られる。

3) 1897～1997　自邸，野々宮アパートなどの作品がよく知られている。

4) 作品に上野陽一邸（1923）がある。
上野陽一（1883～1957）：産業能率，科学管理法の研究者で，1950　産業能率短期大学を設立した。

5) 後にアントニン・レーモンドの下で後藤新平邸，リード博士邸の設計を担当している。

6) 1889～1959　1917コーネル大学卒業。遠藤新と同時期にタリアセンに滞在。長男藤倉憲明氏からの聞き取り調査（1999.8.2）及び遠藤の日記による。

7)『日本建築協会雑誌』第2輯第11号（1919）「会員消息　住所移転（特別讃）伊藤清造　東京市麹町区帝国ホテル新築事務所」とある。

8) ライトを囲む和室での写真（遠藤楽建築創作所所蔵）の裏に遠藤新夫人みやこのメモで「ライトさん，林さん，ミュラさん，ぱゝ，レーモンド氏，ヤングミュラさん，南さん，渡辺さん，河野さん，高橋さん，剣持さん，藤さん（東さん？）」の記入がある。

9) 注8)に同じ

10) 注8)に同じ

11) 井上祐一　初田亨　内田青蔵　大正・昭和初期における，いわゆる「ライト式」の用語の使用について『日本建築学会計画系論文集』第571号，pp. 137-142，(2003.9)

12) 1925年7月遠藤新建築創作所入所　1928年7月

31日同事務所辞任：岡見健彦のノートpp. 10　注13)に同じ。

13) 井上祐一と斉藤優子（当時東京大学工学研究科修士課程）が調査（2002/5/26，6/4，8/21・24，9/5，10/26，11/16，12/11，2003/1/18）したもの。

14) 注13)に同じ

15) 谷川正己・増田彰久『日本の建築9　ライトの遺産』三省堂（1980）岡見健彦年譜 pp. 177

16) 武田五一　イリノイ州カンカヒー市にあるワーレンヒツコツク氏邸「萊都氏案」『新建築』第1巻第1号 pp. 3（1925.8）武田はヒコック邸について，ライトの作風を次のように述べている。「常用手段として其考案されたる住宅は寝室浴室便所台所以外の室は開け放されて居て通路の邪魔になり且つ開閉の邪魔臭い扉を付けずしかも何れも見透しが出来ないで至る所一寸隠れる場を取ってある手法の巧みさには関心させられる。/居間「アルコーブ」「取り付け椅子」「南方の大いなる窓を明け窓の外には露台」「直線模様のステンド硝子」「居間の北は凹壁」/食堂「本棚と置棚が作り付け」「取り付け長椅子」「取り付け本箱」/「窓の大なること軒の出て居ること屋根勾配の緩いことは全く日本建築と似ている。」

17) 平面の型は，ライトあるいは遠藤新の平面でしられている型に雁行型，複合型を加えた。

18) 一文字型：安成邸（1924），一文字変形型：大久保邸（1923）剣持邸（1923），長方形型：黒崎邸（1927）高橋邸（1927），正方形型：千葉邸（1931）自邸（1931）田中邸（1932）
井上祐一　内田青蔵　遠藤新設計による大正・昭和初期の住宅平面からみた生活空間の変容『生活文化史 No. 41』pp. 56～pp. 69　日本生活文化史学会（2002.3）